資料３

三宅町都市計画マスタープラン　将来都市像（骨子案）

| 改定案 | 現行計画（平成 29 年 9 月） |
| --- | --- |
| **■都市づくりの主要課題**<br>**（１）利便性を高める広域連携都市構造の構築**<br>**①生活利便施設等の都市機能の確保**<br>本町では、日常の生活利便施設である小売商業事業所数が減少しており、町民アンケートにおける買物の行動をみると、町外での買い物が約 8 割を占めています。<br>また、町民アンケートでは、住みやすいところについて、「近隣に買い物など日常の生活環境が整っているところ」は低いものの、人口減少等に伴う影響について「近隣スーパーなどの商業施設が撤退し、買い物をする場所がなくなる」が比較的高くなっています。<br>このため、高齢化が進む本町においては、移動販売等含めて、日常の生活利便機能を確保するとともに、近隣市町の商業機能等と連携し、生活利便性の維持・向上に努める必要があります。<br><br>**②町内・町外の円滑な交通連携の強化**<br>町民アンケートでは、通勤・通学、通院、買物の行き先は、田原本町など町外がほとんどで、交通手段は、自動車、オートバイが多くなっています。<br>鉄道駅は、石見駅と但馬駅があり、黒田駅は田原本町に設置されているものの、本町の駅勢圏となっており、通勤・通学の交通拠点となっています。<br>町民アンケートでは、人口減少等に伴い、「道路等の維持・管理」や「電車等の運行本数、路線数が少なくなる」などが懸念されており、町内及び町外との円滑な道路ネットワークの形成や鉄道利用の利便性が求められます。<br><br>**③幹線道路沿道や未利用地等の活用した地域の活性化**<br>本町は革製品製造業（スポーツ用品）を主産業として、産業の振興に取り組んでいますが、近年、製造業の事業所は減少しています。<br>一方、本町東部では、三宅 IC が設置されている京奈和自動車道が供用され、これにアクセスする（都）大和郡山幹線道路の整備が進んでいます。また、石見駅周辺の県有地では、官民連携による新たなまちづくりの検討が進められています。<br>このため、IC にアクセスする幹線道路沿道や石見駅に近接する県有地等を有効に活用し、地域の活性化につなげていく必要があります。 | **■都市づくりの課題**<br>**（１）人口減少対策**<br>本町では平成 2 年をピークに人口は減少し続けており、平成 22 年は世帯数も減少となるなど、人口減少が深刻な状況となっています。<br>人口減少問題は、本町だけでなくわが国全体の重要課題ですが、人口流出が続く自治体と人口流入が続く自治体との２極化が指摘されており、近隣においても広陵町は人口が増加傾向にあります。<br>また、町民意向調査の結果では、町の人口が減少傾向にある理由について、「買物をする場所が減ったりなど、日常生活に影響が出ている」を最も多く回答しており６割以上となっています。<br>また、「にぎわいや活気がなくなるなど、社会の活力がなくなっている」も多く約 6 割となっています。<br>本町においても交通基盤の整備等の都市基盤整備の進展により交通利便性や生活利便性が大きく向上することが期待されることから、計画的に魅力ある都市づくりを進め人口の減少傾向に歯止めをかけ、まちの活力を維持していく必要があります。<br><br>**（３）京奈和自動車道・（都）大和郡山川西三宅線等の整備に合わせた沿道の適正な土地利用**<br>京都、奈良、和歌山を結ぶ、京奈和自動車道と国道 24 号バイパス線の供用が開始されるとともに、平成 27 年 3 月には京奈和自動車道三宅インターチェンジが完成しました。また、三宅インターチェンジと大和中央道を結ぶ（都）大和郡山川西三宅線の整備も着手されており、これらの整備により、本町の交通利便性が飛躍的に高まることから、工場や運輸倉庫、あるいは商業施設など、これらの利便性を活用できる土地利用誘導方策の検討や無秩序な土地利用に対する規制方策について検討を進めることが必要となっています。<br><br>**（２）町外流出の抑制と交通基盤整備による利便性の向上**<br>就業者の 7 割以上、通学者の 9 割以上が町外に流出しています。交通手段として鉄道利用も一定量が見られ、ほぼ横ばいに推移しています。また今後は、高齢化などに伴うバリアフリー化へのニーズも高まると考えられ、鉄道駅や駅前広場、駐車場、駐輪場等の適切な整備を進め、交通利便性を高める必要があります。 |

| 改定案 | 現行計画（平成 29 年 9 月） |
| --- | --- |
| **（２）定住環境の充実**<br>**①生活環境・居住環境の充実**<br>本町では、15 歳から 64 歳の生産年齢人口と若い子育て世代が大きく減少しています。また、65 歳以上の高齢者が増加し、高齢化の進行に伴い空き家が増加しています。<br>一方、本町の持家率は隣接する川西町、田原本町を上回っており、住宅取得の需要が高いことがうかがえます。<br>町民アンケートでは、「ずっと住み続けたい」意向が５割を超え、平成 28（2016）年から 10 ポイント増加しています。<br>人口減少を抑制し地域コミュニティ等を維持するためには、子育て世代や高齢者が安心して暮らせる生活環境や居住環境の充実とともに、空き家の適正管理や有効活用に取り組むなど、若者や子育て世代等の移住・定住を促進する必要があります。<br><br>**②移動環境の改善**<br>町民アンケートによると、鉄道の利用頻度については若い世代を中心に通勤・通学での利用が多い一方で年に数回以下が 5 割以上となっています。<br>高齢化が進む本町においても、移動手段における福祉サービスの充実や鉄道以外の交通手段についての施策に取り組む必要があります。<br><br>**③災害リスクの低減**<br>本町では、河川沿いで広範囲にわたって、洪水や内水の浸水想定区域に指定されています。<br>また、曽我川、寺川沿い等は、氾濫流や河岸浸食により、木造家屋などが倒壊・流出する危険性が高い「家屋倒壊等氾濫想定区域」に指定されています。<br>町民アンケート調査では、「洪水対策や避難体制の確保」が求められている一方、安心・安全メールや自主防災組織の活動の認知度が低くなっています。<br>このため、国や県など関係機関と連携した防災対策とともに、防災情報や地域防災活動等の周知に取り組む必要があります。 | |

| 改定案 | 現行計画（平成 29 年 9 月） |
| --- | --- |
| **（３）地域資源を活用した魅力の向上**<br>**①まちの魅力の発信と新たな魅力の創造**<br>本町は、町民の顔がみえる全国で２番目に小さなまちで、豊かな自然や歴史資源に恵まれ、町外での買い物をはじめ、通勤・通学、通院等にも便利で住み心地のよいまちです。<br>こうしたまちの魅力を広く発信するとともに、県有地で取り組まれている学び・交流、イノベーションの機能を、奈良県立高等技術専門校等の教育機関と一体となって創出していくなど、学生等の若者や女性などが挑戦・活躍できる、新たな魅力の創造に努める必要があります。<br><br>**②脱炭素・循環型まちづくりの継続的な推進**<br>町内では、民有地の約 5 割以上を農地が占めるなど良好な自然環境が形成されており、二酸化炭素排出量は磯城郡 3 町で最も少なく、ごみのリサイクル率は県平均とほぼ同じく比較的高い割合となっています。<br>町民アンケートの住みやすさにおいては、「緑などの自然環境が良いところ」が特に多くなっています。このため、引き続き地球温暖化の防止対策の取り組みとあわせて、町民や事業所等が身近にできる省資源・省エネルギーを実践する必要があります。<br><br>**③自然・歴史文化、景観の保全・創出**<br>本町は、聖徳太子ゆかりの地である太子道や忍性菩薩生誕の地、三宅古墳群など、豊富な文化財に恵まれています。また、1500 年以上続く米作りに培われた美しい田園風景が広がっています。<br>町民アンケートの住みやすさにおいて「三宅町や身近な地域に愛着を感じるところ」が特に多く、これは自然や歴史文化に育まれた良好な地域環境によることがうかがえます。<br>このため、町固有の地域資源の保全・保護を図るとともに、美しい景観を町民とともに守り育てていく必要があります。 | **（４）まちの特性を活かした歴史の道「三宅道」の保全活用**<br>三宅町の「みやけ」は「屯倉」のことで、大和朝廷の直轄領で、穀物を納める倉庫を意味します。三宅という地名は全国に散見されますが、万葉集に記されている「三宅」は本町を指すものです。三宅町商工会においては「屯倉まちおこし実行委員会」が、本町の活性化に寄与しています。<br>万葉集には、「三宅の原」、「三宅道」が出てきますが、これも本町を指すものとされています。三宅という地名の由来、そして古代万葉の歌に詠まれる本町の風景はどこにもない本町の歴史であり特性です。<br>また、三宅道は「太子道」とも呼ばれ、飛鳥宮と斑鳩宮を結ぶ道であり、聖徳太子が愛馬に乗ってこの道を往来したと伝えられています。<br>これらを活かした都市づくり（まちづくり）のあり方を考慮していくことは、本町に住む人を増やし、産業を活性化し、生活基盤整備を行ううえでも重要なことと考えられます。<br>本町は万葉の時代からの歴史を持ち、聖徳太子が飛鳥宮から斑鳩宮に通う道が三宅道であり、その沿道には本町の歴史文化資産である神社等が並んでいることから、三宅道の活用と沿道景観の保全により、町民のこころのふるさととして保全していくことが求められます。<br>また、近年、健康維持増進や観光を促進するため自転車道への期待が高まっており、この「三宅道」を活用していくことも重要と考えられます。 |

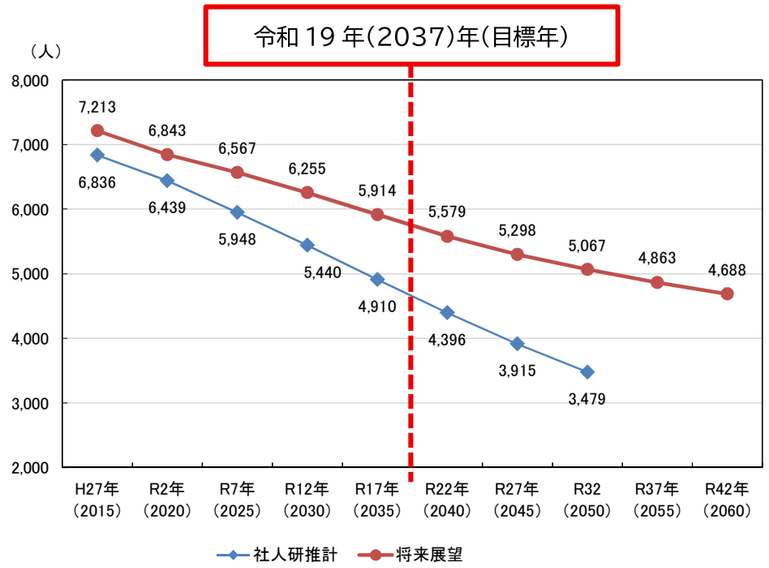
| 改定案 | 現行計画（平成 29 年 9 月） |
| --- | --- |
| **■まちの都市将来像**<br>人口減少・少子高齢化が急速に進行するなか、まちづくりのあり方も大きく変化しています。市街地の拡大や経済成長といった拡大成長路線からコンパクトで持続可能なまちづくりへの転換が求められるとともに、若い世代が住み続けたいと思えるようまちの魅力を高めることや、町に住まうだれもが快適で安心して住み続けられるまちづくりが求められています。<br>特に本町は県内でもっとも面積が小さいまちであり、歴史・文化を活かしたきらめくまちの個性を育むことと、京奈和自動車道三宅 IC 周辺及び（都）大和郡山川西三宅線の沿道や石見駅周辺の県有地を活かした戦略的なまちづくりを実現することが重要になります。<br>古代、聖徳太子が飛鳥の京と斑鳩の里を往来したころ、三宅道（太子道）と称される道が本町内を通り、今もその頃の趣をうかがい知ることができます。また、当時その周辺は「屯倉（みやけ）」と称され、大和朝廷の直轄地として人々の暮らしを支える食料生産・集散・備蓄基地であったと同時に物流拠点でした。<br>本町では、今後も歴史と文化の風が薫るまちの個性を生かしつつ、京奈和自動車道周辺をはじめ、国道 24 号バイパス線や（都）大和郡山川西三宅線沿道における計画的な土地利用を進め、新たな人・ものの流れがもたらす効果を最大限に活かし、町民とともに明日へ飛躍するまちづくりの実現をめざします。 | ■まちの都市将来像<br>人口減少・少子高齢化が急速に進行するなか、まちづくりのあり方も大きく変化しています。市街地の拡大や経済成長といった拡大成長路線からコンパクトで持続可能なまちづくりへの転換が求められるとともに、若い世代が住み続けたいと思えるようまちの魅力を高めることや、町に住まうだれもが快適で安心して住み続けられるまちづくりが求められています。<br>特に本町は県内でもっとも面積が小さいまちであり、歴史・文化を活かしたきらめくまちの個性を育むことと、整備が進む三宅 IC 周辺及び（都）大和郡山川西三宅線の沿道を活かした戦略的なまちづくりを実現することが重要になります。<br>古代、聖徳太子が飛鳥の京と斑鳩の里を往来したころ、三宅道（太子道）と称される道が本町内を通り、今もその頃の趣をうかがい知ることができます。また、当時その周辺は「屯倉（みやけ）」と称され、大和朝廷の直轄地として人々の暮らしを支える食料生産・集散・備蓄基地であったと同時に物流拠点でした。<br>本町では京奈和自動車道及び国道 24 号バイパス線の整備が完了するとともに（都）大和郡山川西三宅線の整備が進められるなど、時代は変わっても交通の要衝であることに変わりなく、このような歴史性も踏まえた計画的な土地利用を進めると同時に、歴史と文化の風が薫るまちの個性と都市整備による新たな人・ものの流れがもたらす効果を活かし、光きらめく明日へ飛躍するまちづくりを進めます。 |
| **■まちづくりの基本目標**<br>まちの将来都市像の実現を図るため、取り組むべきまちづくりの基本目標を次のように定め、これらの基本目標の達成に向け、町民・事業者・行政等が協働しながら本町のまちづくりに取り組みます。<br><br>**1．コンパクトなまちの特性を活かした持続可能なまちづくり**<br>①周辺の都市拠点と連携した利便性の高いまちづくりをめざします。<br>②道路・交通ネットワークが充実したまちづくりをめざします。<br>③まちの資源を地域活性化につなげるまちづくりをめざします。<br><br>**2．安全で快適に暮らせるまちづくり**<br>①若者や子育て世代等の定住・移住を促進するまちづくりをめざします。<br>②誰もが安心して歩いて暮らせるまちづくりをめざします。<br>③町民の安心・安全を守る災害に強いまちづくりをめざします。 | ■まちづくりの基本目標<br>まちの将来都市像の実現を図るため、取り組むべきまちづくりの基本目標を次のように定め、町民・事業者・行政等がこれらの基本目標の達成に向け、協働しながら本町のまちづくりに取り組みます。<br><br>**②農・住・産が適正に配置され調和がとれたまちづくり**<br>本町は住宅地と農地が主な土地利用となっており、第 2 次、第 3 次産業の土地利用は少なくなっています。また、町民意向調査の結果では、「買物をする場所が減ったりなど、日常生活に影響が出ている」、「にぎわいや活気がなくなるなど、社会の活力がなくなっている」への回答割合が多くなっています。<br>今後は農・住・産が調和のとれた適正な土地利用の配置を進めるとともに、このような土地利用の変化により、生活環境が大きく損なわれることがないよう、あわせて住環境や自然環境の維持保全等に取り組み、**生活利便性とうるおいの調和がとれたまちづくり**をめざします。<br><br>**③安全・安心で暮らしやすいまちづくり**<br>本町はたびたび大雨による浸水被害が生じているなど水害の発生しやすい地勢にあります。また、（都）大和郡山川西三宅線等の都市基盤整備が進むことによる交通量の増加や大型車両の通過交通なども懸念されることから、利便性の高い土地利用を進める一方で、都市防災機能の強化や防犯・交通安全等に配慮した環境づくりにより、**利便性と安全性が両立する安全・安心で暮らしやすいまちづくり**をめざします。 |

| 改定案 | 現行計画（平成 29 年 9 月） |
| --- | --- |
| **3.まちの個性を生かしたまちづくり**<br>①賑いと交流を育むまちづくりをめざします。<br>②健康で文化的なまちづくりをめざします。<br>③文化的遺産や美しい景観を後世に伝えるまちづくりをめざします。<br><br>**「主要課題」と「まちづくりの基本目標」の関係性**<br><br>まちづくりの主要課題 → まちづくりの基本目標<br><br>**（1）利便性を高める広域都市構造の構築**<br>①生活利便施設等の都市機能の確保<br>②町内・町外の円滑な交通連携の強化<br>③幹線道路沿道等を活用した地域の活性化<br>→ **1.コンパクトなまちの特性を活かした持続可能なまちづくり**<br>①周辺の都市拠点と連携した利便性の高いまちづくりをめざします。<br>②道路・交通ネットワークが充実したまちづくりをめざします。<br>③まちの資源を地域活性化につなげるまちづくりをめざします。<br><br>**（2）住環境の充実**<br>①生活環境・居住環境の充実<br>②移動環境の改善<br>③災害リスクの低減<br>→ **2.安全で快適に暮らせるまちづくり**<br>①若者や子育て世代等の定住・移住を促進するまちづくりをめざします。<br>②誰もが安心して歩いて暮らせるまちづくりをめざします。<br>③町民の安心・安全を守る災害に強いまちづくりをめざします。<br><br>**（3）地域資源を活用した魅力の向上**<br>①まちの魅力の発信と新たな魅力の創造<br>②脱炭素・循環型まちづくりの継続的な推進<br>③自然・歴史文化、景観の保全・創出<br>→ **3.まちの個性を生かしたまちづくり**<br>①交流や学びを育むまちづくりをめざします。<br>②健康で文化的なまちづくりをめざします。<br>③文化的遺産や美しい景観を後世に伝えるまちづくりをめざします。<br><br>※全体構想　分野別方針とのつながり（案）<br>（1）市街地の方針、道路・交通（幹線道路・公共交通）の方針等<br>（2）住宅地の方針、道路・交通の方針、水と緑の方針、その他都市施設の方針、都市防災の方針等<br>（3）地域資源活用の方針、自然・環境共生の方針、都市景観の方針 | **①屯倉（みやけ）のものづくりと魅力ある歴史・文化を活かしたにぎわいと活力あるまちづくり**<br>「屯倉」は米倉があるだけでなく、古代大和朝廷の暮らしを支える備蓄基地として様々な物が集められた物流拠点ともいえるものでした。このような歴史的背景を受け継ぐ本町では、特色ある地場産業の振興を図るとともに、京奈和自動車道、（都）大和郡山川西三宅線等の広域幹線道路を活かした物流拠点の集積、魅力ある**地域資源を活かした観光機能の充実を図り、にぎわいと活力あるまちづくり**をめざします。 |

| 改定案 | 現行計画（平成 29 年 9 月） |
| --- | --- |

**■将来人口**

本計画では、概ね 10 年後のまちの姿を展望しつつ、三宅町総合計画基本構想との整合を図るために、令和 19（2037）年の推計人口を約 6,000 人をめざします。




**令和 19 年目標人口 約 6,000 人**

**■将来都市像**

（１）都市構造の基本的な考え方

本町は奈良県下でも最も小さなまちであり、東西約 3.4km、南北約 2.0km のコンパクトな町域となっています。

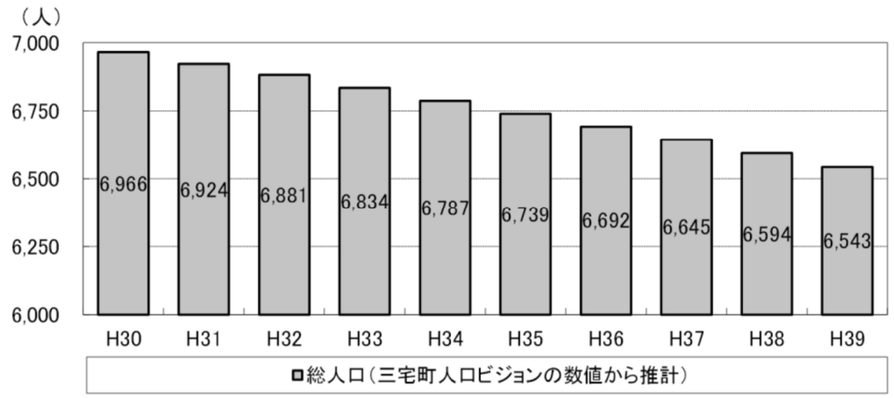
平成 27（2015）年３月に京奈和自動車道三宅 IC と一般道路部の供用が開始され、これまでインター周辺を工業ゾーンと位置づけ企業誘致を進めてきたところです。また、三宅 IC へのアクセス道路として（都）大和郡山川西三宅線（通称「大和中央道」）の整備も進められているところです。

このダイナミックな交通交流の変化を活かし、三宅 IC 周辺や大和中央道の沿道に商工業エリアを順次配置し、都市機能を担う生活利便施設等の集積を図ります。

また、石見駅周辺地域では、県有地を核とした次世代を担う学生と企業がつながり学ぶ施設立地と緊密に連携することにより賑わいと交流を創出し、また、周辺インフラ整備を進めることにより町全体にその効果を波及させることとします。

■将来人口フレーム

本計画では、概ね 10 年後のまちの姿を展望しつつ、三宅町総合計画基本構想との整合を図るために、平成 39（2027） 年の目標人口を 6,600 人とします。




**【将来目標人口】**

**平成 39 年目標人口　6,600 人**

■将来都市像

（１）都市構造の基本的な考え方

本町は奈良県下でも最も小さなまちであり、東西約 3.4km、南北約 2.0km のコンパクトな町域となっています。また、町内の用途地域には商業系用途がないことや、広域幹線道路が通っていなかったことなどにより、商業的土地利用が進んでいない状況にありました。

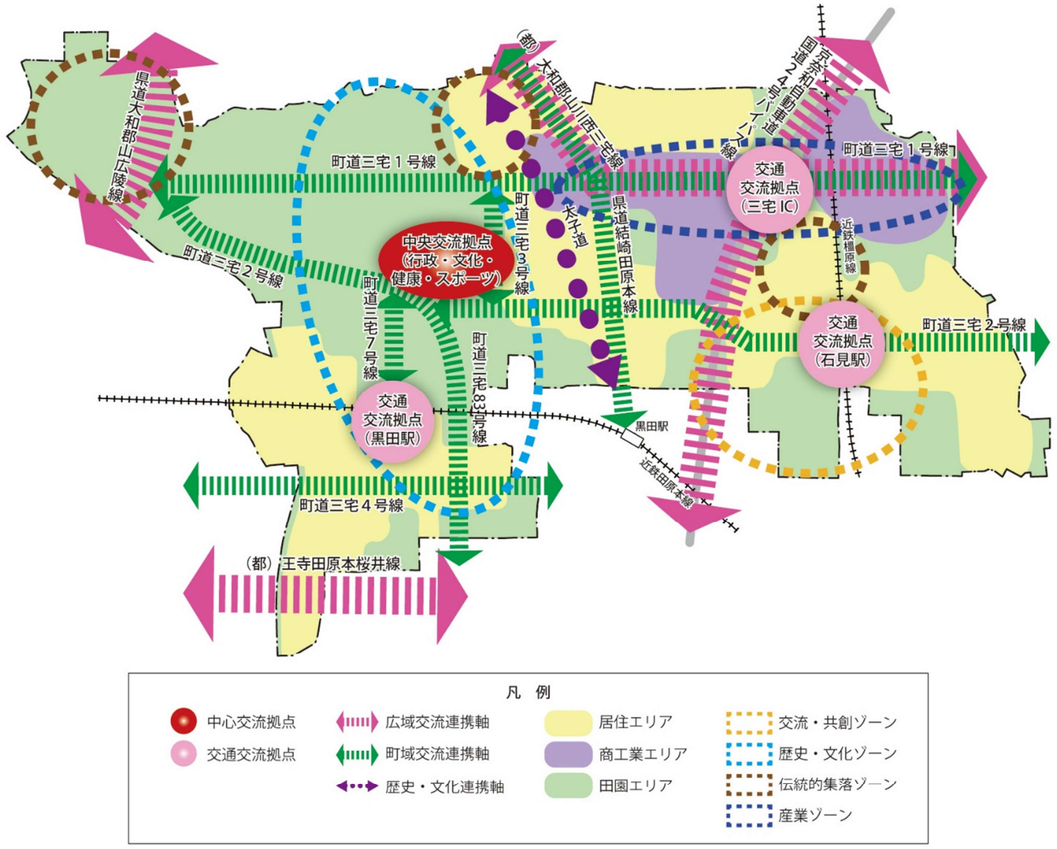
しかし、平成 27 年３月に京奈和自動車道三宅 IC と一般道路部の供用が開始され、さらに三宅 IC へのアクセス道路として、（都）大和郡山川西三宅線の整備が進められるなど、都市構造が大きく変わる機会にあります。

そのため、本計画における将来都市構造は、このダイナミックな変化を活かした都市構造とし、交通交流拠点である三宅 IC 周辺や広域交流連携軸である（都）大和郡山川西三宅線等の沿道に商工業エリアを配置し、都市機能や生活利便施設の集積を図ります。

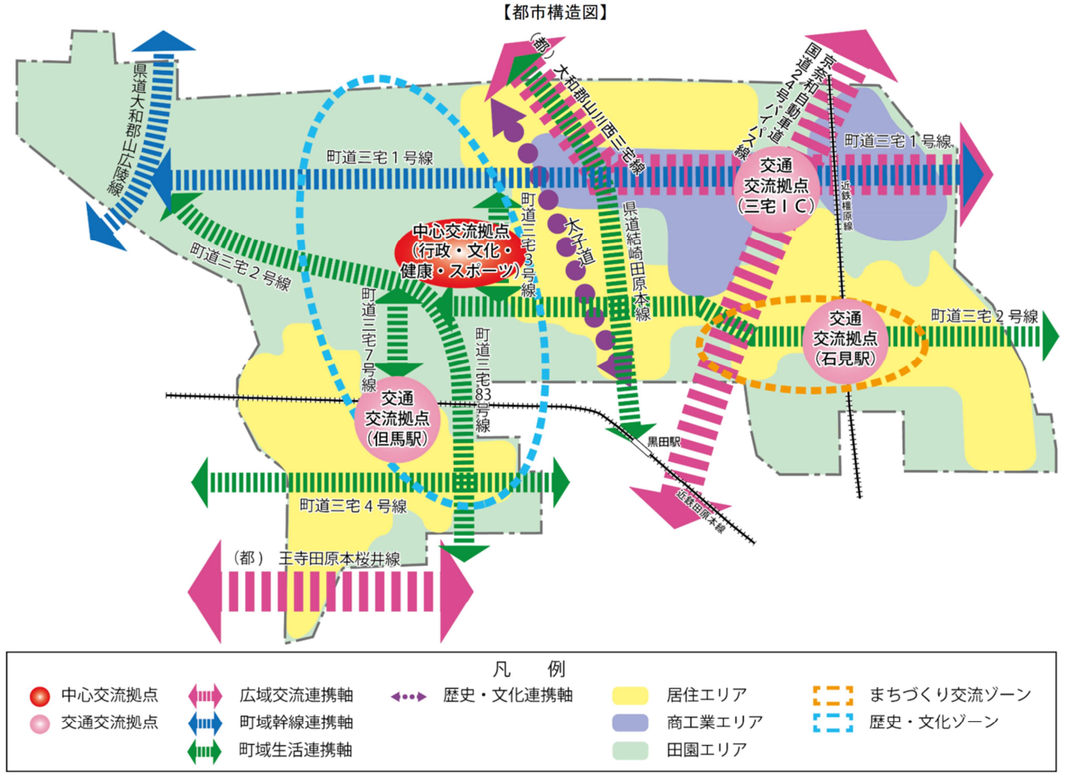
また、この商工業エリアにおける集積を住宅エリアと町域幹線連携軸や町域生活連携軸でネットワークさせることにより、町全体にその効果を波及させることとします。

## 改定案

| | | |
|---|---|---|
| **拠点** | 中心交流拠点 | 役場～三宅町体育館周辺 |
| | 交通交流拠点 | 石見駅周辺、但馬駅周辺、三宅 IC 周辺 |
| **軸** | 広域交流連携軸 | 京奈和自動車道、国道 24 号バイパス線、(都)大和郡山川西三宅線、(都)王寺田原本桜井線、町道三宅１号線、県道大和郡山広陵線 |
| （変更） | 町域交流連携軸 | 町道三宅１号線、県道結崎田原本線、町道三宅２号線、町道三宅３号線、町道三宅４号線<br>町道三宅７号線、町道三宅 83 号線 |
| | 歴史・文化連携軸 | 太子道 |
| **ゾーン**<br>（変更） | 交流・共創ゾーン | 近鉄石見駅周辺から町道三宅２号線沿道で京奈和自動車道まで<br>学生が生活・交流・学びを通じて、企業や地域と連携するゾーン |
| | 歴史・文化ゾーン | 中央公民館、三宅古墳群等の歴史・文化資源の集積を含むエリア |
| （追加） | （仮）伝統的集落ゾーン | 小柳、屏風、三河周辺集落<br>奈良盆地特有の伝統的集落や田園風景を保全するゾーン |
| （追加） | （仮）産業ゾーン | 京奈和自動車道を西側の大和郡山川西三宅線沿道は主に商業系施設、東側の町道三宅１号線沿道は工業系施設の立地誘導を図るゾーン |




## 現行計画（平成 29 年 9 月）

| | | |
|---|---|---|
| 拠点 | 中心交流拠点 | 役場～三宅町体育館周辺 |
| | 交通交流拠点 | 石見駅周辺、但馬駅周辺、三宅 IC 周辺 |
| 軸 | 広域交流連携軸 | 京奈和自動車道、国道 24 号バイパス線、(都)大和郡山川西三宅線、(都)王寺田原本桜井線、町道三宅１号線 |
| | 町域交流連携軸 | 県道大和郡山広陵線、町道三宅１号線 |
| | 町域生活連携軸 | 県道結崎田原本線、町道三宅２号線、町道三宅３号線、町道三宅４号線、町道三宅７号線、町道三宅 83 号線 |
| | 歴史・文化連携軸 | 太子道 |
| ゾーン | まちづくり交流ゾーン | 近鉄石見駅周辺から町道三宅２号線沿道で京奈和自動車道まで |
| | 歴史・文化ゾーン | 中央公民館、三宅古墳群等の歴史・文化資源の集積を含むエリア |

【都市構造図】